

和歌山病院での実習を終えて



西谷 雅彦

呼吸器内科臨床実習の一環として国立病院機構和歌山病院で2日間実習をさせて頂きました。南方院長先生をはじめ、多くの先生方やスタッフの方にお世話になり、大変有意義な経験となりました。

2日間の実習の中で、特に南方院長のセミナーが印象に残りました。セミナーで院長は胸部レントゲンの見方を例として、その画像の所見をなぜそのように述べることができるのかということ突き詰めて、自分たちで説明できるように【考える】というきっかけを頂きました。胸部レントゲンを読む際の考え方の勉強になった上、説明する際に自分で考える過程を大事にして取り組むということの大切さを学び、これまでテスト勉強の際に忘れていた【考えるとは楽しいこと】という初心に立ち返ることが出来ました。

また、南方院長のお話の中で「患者さんが求めているものは、論理的に自分の病気の病態や症状、検査・治療などについて説明してもらうこと」という内容がありました。自分の言葉で患者さんに説明するだけでなく、患者さんが理解出来るように説明することの大切さを学びました。それと同時に、しっかりとした説明をするためには自分が納得できる最善の医療を提供出来るように努力することが欠かせないと感じました。

この経験を生かして将来患者さんに還元していけるように今後よりいっそう頑張りたいと思います。